



昼仕事の後、お店を手伝う佐野さんが笑顔でお出迎え

家路

綾瀬駅 徒歩8分

赤ちやん

(657)



【足立・書記・浪江紀之通 居酒屋】家路を紹介し、分会で役員を務める佐野直美さんのお母さん(お母さん)と人の娘さんが切り盛りする、ぶ料理の香りが食欲をそそる。

仲間が携わった店

手作り家庭料理は絶品

家庭の温かい手作りの料理を、とてモリスナブルに味わえ、何度でも立ち寄りたくなります。皆さんもぜひ一度土建の仲間が作り上げた綾瀬の名店『家路』に立ち寄りてみてください。

《メニュー》
生ビール 480円
瓶ビール 500円
サワー・酎ハイ 300円
清酒(一合) 500円
名物から揚げ 2個300円
煮込み・しらすおろし・冷やしトマト・キムチ・イカ塩辛・長イモ千切り・冷奴・厚揚げ・お新香ほか 300円
豚しょうが焼き・焼き魚・イカ一夜干しほか 400円
営業時間 17時~23時、定休日 水曜・祝日(不定休あり)、住所 足立区綾瀬5-1-1104、☎070-4207-5072

忘れえぬこと

戦場の如き下小屋

建築請負業の嫁一代記

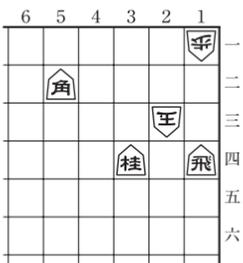
建築事務 大沼律子



昭和35年11月、世田谷で建築請負業の長男に嫁にきました。家族6人に住み込みの50代ベテランと職業訓練校卒のE君が加わり、合わせて8人での生活でした。

昭和35年11月、世田谷で建築請負業の長男に嫁にきました。家族6人に住み込みの50代ベテランと職業訓練校卒のE君が加わり、合わせて8人での生活でした。私たちは1階に住み、毎朝主屋で朝食の準備、現場に出るとは呼ばれて研究室に通ったが、実際はアイヌの着物を着させられ、学会でアイヌの説明をするための標本として扱われた。兄玉教授は静江の中学校の学費を援助しているとして、新聞社に静江の写真を撮らせ、「愛の学費」という見出しの記事を出させたが、学費を出していたのは静江の親だった。静江はアイヌへの差別のわけを知りたくて勉強を始めた。

詰将棋



チヨット一服(977)

大臣たるもの知ったかぶりだめだろ。柴山昌彦文科大臣のことだ。大臣就任記者会見でNHKの記者に「過去の文科大臣は教育勅語には真つ当なことも書かれていて、言っているが、柴山大臣も同様の考えか」と質問され、「アレンジすれば道徳等に使える」と答えたが、記者に「どなたで」と再質問されて、「同胞を大切にするとか、あるいは国際的な協調を重んじるとか」と答えてしまった。教育勅語には同胞という言葉もなければ、国際的な協調も出てこない。安倍政権の大臣であれば、教育勅語に否定的な見解を述べることはできないと考えたのであろう。



【本部・大宮早紀子記】

昨年の10月、12月、上野の森美術館で「怖い絵展」が開催され、41万人以上を動員しました。今回は「怖い絵」シリーズの初作を紹介します。この本の一番の面白みは、「この絵は怖い」と感じさせる解説力です。著者はドイツ文学者、西洋文化史家であり、オペラや美術だけでなく歴史や風俗についても詳しいため、絵に対する深い洞察と歴史的・文化的背景の知識が豊富です。そのため、なぜ怖いかというところが視覚という一面的な感覚だけでなく、理論的に分かります。

怖い絵

中野 京子

凄すぎる解説力が背筋を凍らせる

著者がこの本を書きかけたのは、アンソワネの「マリイ・アントワネ最後の肖像」です。処刑場へ行くために荷車に乗せられたマリイ・アントワネのスケッチ画です。作者のダヴィッドは時の権力者におもねる狡猾な画家で、アントワネットをみすばらしく貶める、書き手のいやらしさがでた作品となっています。しかし、女王としての品格が漂っています。そういった、作者の対象に対する「悪意」が解説によつて浮き彫りになり、「怖い絵」ということがわかります。



この本を読むと、芸術品は美しさだけでなく「死」「狂気」「悪意」など様々な意味をもつことがわかります。視野が広がる、芸術の秋にぴったりの本です。(角川文庫・734円税込)